



No. 46

1991. 9. 12

佐賀大学情報処理センター

内線 (2592)

1. N1 (NVT) の機能アップについて

1. N1の機能アップについて

OSのバージョンアップに伴いN1 (NVT) の機能アップも行いました。

N1が機能アップされた内容は、以下の3点です。

- (1) ログファイルの機能アップ。
- (2) グラフィックスのサポート。
- (3) 他大学センターとセッション中での本センターの計算機への出入り。

グラフィックス (九大GRAPHMANなど) を利用できるのは、テクトロ4014をサポートしているエミュレータ・ソフト (NICA, TSSPFDなど) で接続したパソコン端末にかぎります。

1-1 ログファイルの機能アップ

ログファイルは、N1起動時から終了まで採取していましたが、機能アップに伴い必要な部分だけをログファイルに採取できるようになりました。

- (1) N1起動時から終了までのログファイルを採取する場合。

N1起動時から終了までをログファイルに採取する場合は、次のようにコマンドを入力します。以前との変更点は、ログファイル名の後にONと入力するところです。

) N1 ログファイル名 ON ↵

ログファイル名は任意に指定できますが、ログファイル名の後には端末番号が付加されますので注意してください。(情報処理センター広報P.56~57参照)

(2) 必要な部分をログファイルに採取する場合。

必要な部分をログファイルに採取する場合は、次のような手順で行います。

) N1 ログファイル名 ↵

任意の大型計算機センターとセッションを開設します。

(情報処理センター広報P.60~63参照)

例えば、九大大型計算機センターとセッションを開設しデータセットの内容をログファイルに採取します。

READY

ECS キーを押す。(N1のサブコマンド入力環境に入る)

XNVT) ON ↵ (ログファイルの採取を始める)

XNVT) ↵

↵ (N1のサブコマンド入力環境から抜ける)

READY

LIST TEST.DATA ↵

KEQ52800I A99999A.TEST.DATA

11111222223333344444

55555666667777788888

9999900000

KEQ52802I END OF DATA

READY

ECS キーを押す。(N1のサブコマンド入力環境に入る)

XNVT) OFF ↵ (ログファイルの採取を終了する)

XNVT) ↵

↵ (N1のサブコマンド入力環境から抜ける)

READY

1-2 グラフィックスのサポート

グラフィックスは、専用端末とCEO CONNECTIONで接続されたパソコン端末では、利用できません。

利用できるのは、前に述べたようにテクトロ4014のエミュレータをサポートしたエミュレータ・ソフト（NICA, TSSPFDなど）で接続したパソコン端末に限ります。

(1) NICAで接続したパソコン端末での利用手順

長岡技術科学大学情報処理センターの高橋治道氏が開発されたNICA（情報処理センター広報第2号P.42~52参照）で、グラフィックスが利用できますので、九大大型計算機センターのGRAPHMANの利用を例にして、グラフィックスの利用手順を紹介します。

NICAを起動させると、パソコン側のC・S（コミュニケーション・サーバー）のプロンプトが画面に表示されます。

NICAを起動し、カーソルが画面左上に表示されたらリターン・キーを押す。

ECS99) C CENTER ↵ （センターの計算機と接続するためのコマンド）

connect : Connection complete

*** / Press NEW-LINE to begin logging on ***

リターン・キーを押す。

ユーザー名とパスワードを入力し、セッションを開設する。

) (プロンプト表示)

GRPH キーを押しながら T キーを押してテクトロ4014エミュレータを起動する。(画面の文字が小さくなり、プロンプトが消えます。)

N1 ↵ (N1を起動させます。)

Which Host-No.? 1 ↵ (九大を選びます。)

TERMINAL MODE(1: BASIC 2: GRAPHIC) ? 2 ↵ (グラフィックスを選びます。)

九大課題番号とパスワードを入力し、セッションを開設します。

READY

GRAPHMANを起動させ、グラフを表示させます。

NICAのグラフィック機能（情報処理センター広報第2号P.50参照）は、画面に表示されたグラフは直接プリンターに出力することができません。

いったんファイルに保存し、NGT.EXEを使用してプリント・アウトします。

画面に表示されたグラフは、**GRPH** キーを押したまま **COPY** キーを押すことにより、ワーク・ファイルに保存することができます。

グラフを保存し、九大のセッションを終了すると自動的にN1も終了しますので、テクトロ4014エミュレータを解除します。解除する場合は、**GRPH** キーを押しながら **Q** キーを押します。そうすると画面の文字が大きくなります。

1-3 他大学センターとセッション中での本センターの計算機への出入り

N1で他大学のセンターとセッション中に、セッションを終了することなく本センターの計算機的环境（CLI環境）に出入りすることができます。

例えば、九大センターとセッション中に電子メールを見たい場合は、次のように行います。

```
READY
```

```
ECS キーを押す。
```

```
XNVT) XCLI ↵ (本センター計算機に入る)
```

```
AOS/VS II CLI32 Release 02.02.00.0i dd-mon-yy hh:mm:ss
```

```
Son of XNVT csh ↵ (UNIX環境に入る)
```

```
% mailx ↵ (メールを見る)
```

```
No mail for ユーザー名 (メールは来ていない)
```

```
% by ↵ (UNIX環境から抜ける)
```

```
Son of XNVT by ↵ (本センター計算機から抜ける)
```

```
XNVT) ↵
```

```
↵
```

```
READY
```